

ロイロノートを用いて授業における学習効率を高める

■ 使用する機器、アプリ等

iPad、ロイロノート

■ 学習のねらい

2直線の交点を通る直線の方程式の立て方を理解し、小テストで解いた問題を、別解として再度解くことができるようになる。

■ 授業の流れ(50分)

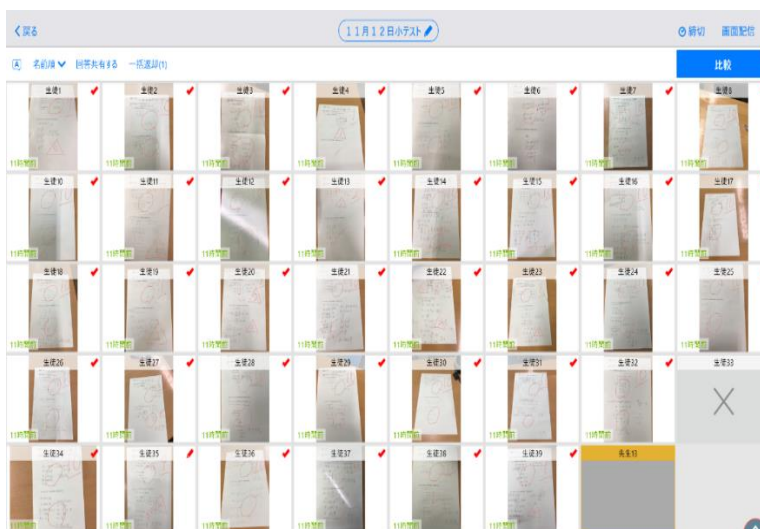
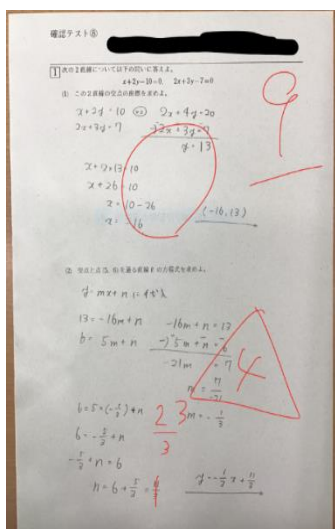
時間	学習活動
15分 導入	○ロイロノートを用いて、前回の小テストの返却。 ○小テストの実施(約10分)。 ○ロイロノートで答案の写真を撮り、提出。
30分 展開	○ロイロノート上で新しく学ぶ公式の学習を行う。 ○配付プリントにある問題を1つずつ各自考える。 ○傾合いを見て時間を切り、ロイロノートのプリント画像に解答が書き込まれる形で解説されるので、それを見ながら答え合わせをする。
5分 まとめ	○不明な点の質問等、本日の学習をふりかえる。

■ ココで ICT を活用！

小テストの返却及び提出

動画 1

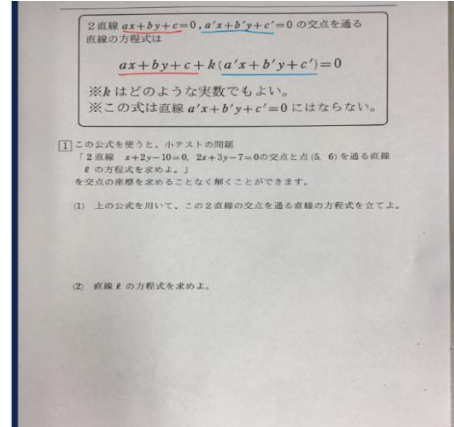
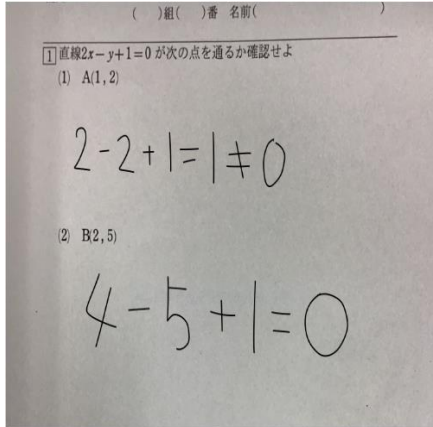
前回の小テストの返却と今回の小テストの提出を、ロイロノートを用いて行う。



ロイロノートに書き込みながら解説を行う。

動画 2

解説をロイロノートに書きこみながら行い、これまで口頭で行ってきた重要ポイントの指示・説明をタブレット上ですることにより、生徒は聞き逃したことも容易に確認ができる。



■ ICT 活用のメリット

ロイロノート上で小テストの提出・返却をすることで、時間の効率化と安全の確保ができる。

○小テストにおいては、返却に時間がかかったり、他人に自分の点数を見られてしまうというリスクがあったり、一度返却してしまうと点数しか教員の手元に残らなかったりするなど、様々なデメリットがある。ロイロノートを用いて小テストを提出させることによりこれらのデメリットが解消できた。

ロイロノートで解説を行うことにより、学習効率が向上する。

○ノートを取りながら考えるというマルチタスクは非常に非効率である。解説を画面上で行うことにより、重要なポイントを教員側からの確に伝えられるので、生徒も聞き逃しや見逃しに対して対応ができるようになり、より問題に集中できる。

■ 本実践での工夫

学習スピードに合わせて課題を用意

生徒自身で考える時間が増えたため、学習スピードの個人差が大きくなることが予想される。その対応として、早く終わった生徒が取り組めるよう、公式の証明の問題をロイロノート上に用意した。

■ 実践の振り返りー活用を深めるためにー

○生徒は、iPad やロイロノートの操作に戸惑うことなく取り組んでいた。

○数学だけでなく様々な教科からプリントが配付されて、生徒のクリアファイルはいっぱいである。

その点からもペーパーレスで小テストを行ったことは生徒たちに好評であった。

○今回の事例では、ロイロノートを用いて板書をカットすることにより、学習効率は上がったことを示したが、ロイロノートを使う教科的なメリットが提示できなかった。今後の大きな課題である。